

## 第6学年4組 道徳学習指導案

指導者 野村 未帆

- 1 主題名 生きるということ  
内容項目 3－（1）生命尊重  
資料名 「命をみつめて」

### 2 主題設定の理由

#### （1）主題について

本主題は、内容項目3－（1）「生命がかけがえのないものであることを知り、自他の生命を尊重する」である。この内容項目は、低学年の「生きることを喜び、生命を大切にすることを」こと、中学年の「生命の尊さを感じ取り、生命あるものを大切にすること」ことから発展してきている。そして、主として人間の生命の尊さについて考えを深めることになるが、生きているものすべての生命の尊さにも価値を置きながら考えていかなければならない。

人間の生き方は、時代により、様々な影響や制限を受けてきた。自分の意志で進むべき道を決定することができなかった時代、生きることが困難な時代さえあった。今の世の中は、便利で快適な生活を送り、自らが何かを求めなくても、なんとなく世の中の流れにのってしまえば生きていける。生きていくために何かをしなければいけない時代ではなくなった。そのような世の中では、生命を当然のように与えられたものとして受け止め、生きていることをごく当たり前のようにとらえている。だが、自分に与えられた命はいつか必ず終わりを迎える。そして、命の終わりがいつ訪れるのかは誰にも分からない。だからこそ、私たち人間は、今というこの瞬間を精一杯生きなければならない。たった一つしかない命を大事にして生きていかなければならないのだ。

しかし、わたしたちは日頃の生活の中で、命について、生きているということについて、深く考える機会はありません。3月に起きた東日本大震災を目の当たりにしている子どもたちでさえも、「かわいそう」「たくさんの人が死んでしまって悲しい」という思いはあっても、「自分は限りある人生の中でどのように生きていくか」「自分の命を大切にしよう」などと考える子どもは少ない。自分や近い人の命の終わりや直視したときに初めて、「命・生きる」ということを見つめ直すことになるのかもしれない。

この期の児童は、誕生から死までの生命について考えられるようになる。また、生命が祖先から自分、そして子孫へと受け継がれ、さまざまな人々との支え合いの中で生きていることが分かる。いろいろな学習や体験から得た情報から、生命の大切さを感じてはいる。しかし、それらが自分のこととして考える機会は多くなく、現実感に伴っていない。そのため、自分にとって生きていることは当たり前であり、生きていることが幸せだと感じることはほとんどない。

そこで、本主題では、生きていることの偉大さや尊さを身近に感じ、精一杯生きることの大切さを改めて考えさせていく。このような時代だからこそ、様々な困難に立ち向かい、それらと闘いながら一生懸命生きている人の生き方に触れさせ、自らの生き方を見つめさせたい。人間の「死」を児童に直視させることは、自分の未来を不安に感じたり、暗い気持ちにさせたりする危険性を伴うが、「死」を直視させてこそ、自分の「命・生きる」ということについて真剣に考えることができるのではないだろうか。子どもたちに自分の生き方を大切に、精一杯生きてほしいと思い、この主題を設定した。

(2) 児童の実態 (男子14名 女子19名 計33名)

本学級では、家でペットを飼っている児童が約半数おり、ほとんどの児童は今までに何かを飼っていた経験がある。そこで、6月に「ペットの命はだれのもの？」(NHK 道徳ドキュメント)で生命尊重について考えた。そこでは、小さな動物たちにも生命があり、その生命の大切さについて考えを深めた。

また、朝のスピーチや夏休みの自由研究では、東日本大震災をテーマにする児童がたくさんおり、生命について考える児童が増えているように思われる。そこで、学級の児童が生命についてどのような考えを持っているのか、アンケートを実施した。(アンケート実施時1名欠席 計32名)

**Q1 普段の生活の中で「命・生きる」ということについて考えることはありますか。**

よくある・・・(2名) たまにある・・・(15名)

ほとんどない・・・(13名) まったくない・・・(2名)

児童にとって「命・生きる」というテーマは普段の生活から離れた存在であり、頻繁に口にする内容ではない。そのため、どれほどの児童が生命について考えているのか知る必要があると考え、調査を行った。その結果、「よくある」「たまにある」と答えている児童が半数以上いることに驚いた。このような児童には、「命・生きる」ということを自分のこととして考え、これからどのように生きていくか、考えを深める時間にしていきたい。一方、「ほとんどない」「まったくない」と答えている児童も15名ほどいる。この授業を通して自分の在り方や生き方を見つめ直す一つのきっかけとなるようにしていきたい。

**Q2 自分はどんな生き方をしたいか考えたことはありますか。**

ある・・・(15名) ない・・・(17名)

Q2の質問は、自分の生き方を考えることは、自分の命を大切にすることにつながると考え、設定した。この結果から、将来に対して夢をもっていなかったり、生き方を考えたことがなかったりする児童が17名おり、これまでに自分の生き方を考える機会があまりなかったことが分かった。このような児童には、命の尊さを感じさせたい。命の尊さを感じることができれば、自分がこれから「どう生きていくか」ということに目が向くと考えられるからである。また、「ある」と答えた児童には、この授業で懸命に生きる人の生き方に触れさせることで、どんな困難にも立ち向かい、夢や希望をもって精一杯生きることが大切であることを感じて欲しいと思う。

**Q3 東日本大震災を経験し、どんなことを感じましたか。(複数回答)**

○怖かった・・・(12名)

○東北の人たちはすごくかわいそう・・・(9名)

○人が亡くなったり行方不明になったりして悲しい・・・(5名) ○協力したい・・・(3名)

○これからが不安・・・(1名) ○たくさんの人が死んでびっくりした・・・(1名)

○身近な人の大切さを感じた・・・(1名) ○人は助け合わなければならない・・・(1名)

○「悲しい・かわいそう」ではおさまらない・・・(1名) ○東北の人は大変だ・・・(1名)

○家族が亡くなっているのに「その人のためにもがんばる」なんてすごい・・・(1名)

○いつ何が起きるのかわからないから、後悔のない人生を送りたい・・・(1名)

○もうこんなこと起きないでほしい・・・(1名)

Q3の質問では、これまでに感じたことのない恐怖を経験し、多くの命を奪った東日本大震災を目の当たりにしてきた子どもたちが、そこからどのようなことを感じ取ったのか、調査を行った。回答を見ると、実際に大きな揺れを感じ、恐怖感をもったり、不安な気持ちをもったりしている児童が多くいることがわかる。このような児童には、夢や希望をもち、明るく人生を送れるような生き方を考えさせていきたい。また、「かわいそう」「悲しい」と答える児童が多い中、震災から自分の人生を考える児童がいたり、身近な人の大切さを感じたりしている児童がいる。本授業を通して、このような考え方を広げられるようにしていきたい。

このアンケートを通して、子どもたちには生命についてじっくり考える時間を設けることが必要であることが分かった。生命の尊さを見つめ直し、生きるとはどういうことなのか、じっくり考えさせたい。そして、一度きりの人生を精一杯生きていこうとする心情を育てたい。

### (3) 資料について (みんなのどうとく6年 学研)

本資料は、右大腿骨骨肉腫を患った猿渡瞳さんの病気との闘いの記録、そしてその中で感じたことを表し、弁論大会で発表した「命をみつめて」という作文とその作文にかける瞳さんの強い思いが描かれた資料である。

瞳さんは、11歳で骨肉腫が発見され、母親からがん告知を受ける。病気に負けまいと懸命に生きる姿、苦しい治療のさなかでも明るさを絶やさず前向きに生きる姿が伝わってくる。その闘病生活で、普通に生きることの幸せと命の尊さを痛感した瞳さんは、弁論大会に出場するために「伝えたいこと」というテーマで作文を書く。弁論大会当日の朝まで繰り返される必死の推敲の様子からも、その作文に込めた瞳さんの思いの強さが伝わってくる。弁論大会から2ヶ月後、瞳さんはこの世を去った。

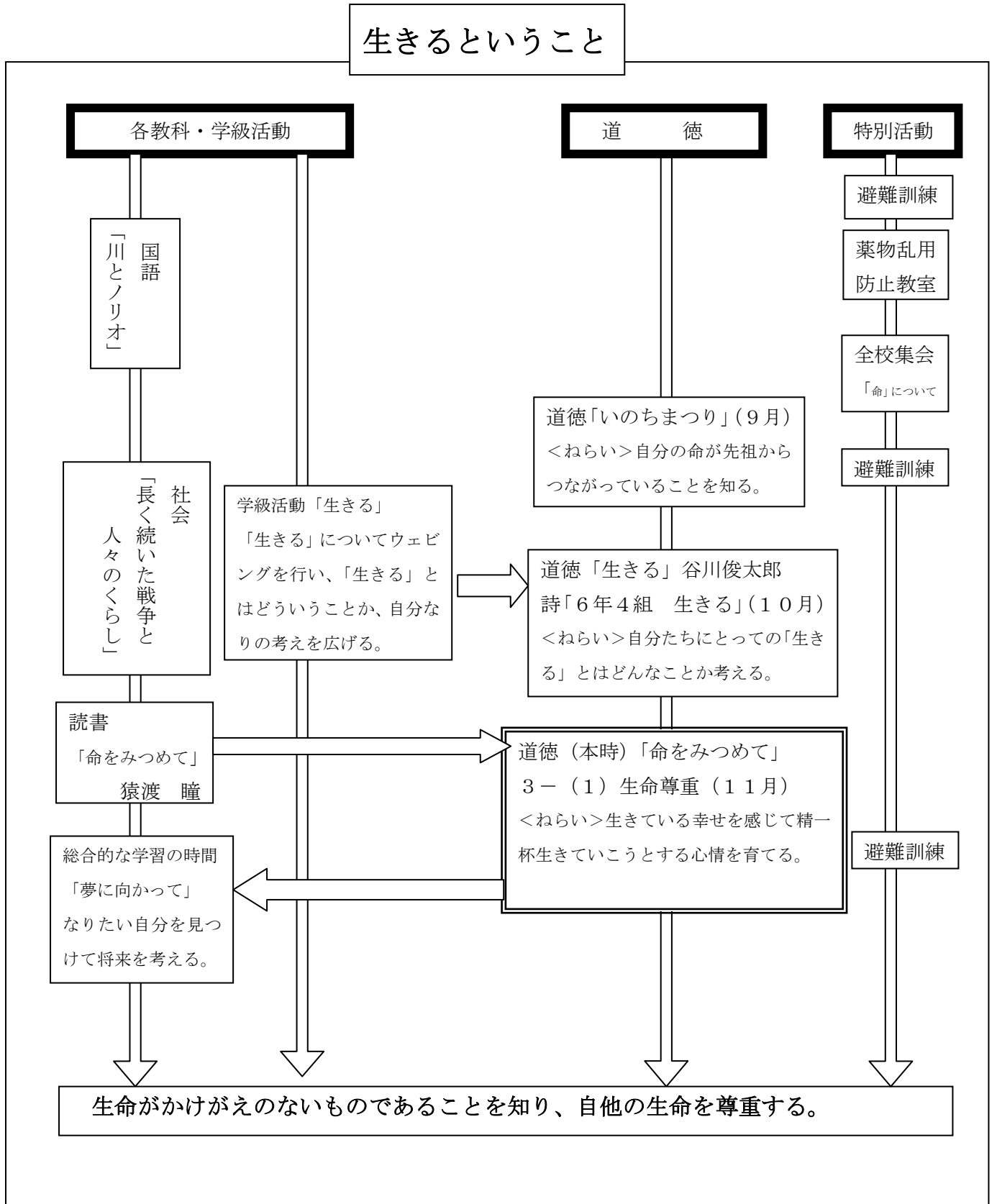
このような一人の少女の闘病生活の資料を通して、「がんに負けずにがんばって瞳さんはすごい」という感想に終始してしまうと、生命尊重の価値に迫ることはできない。瞳さんの夢を追いかける強い意志、「生きたい」と願う切実な気持ちから、瞳さんの伝えなかった命の尊さを感じて、自分の生き方を見つめて、前向きに生きていこうという思いを深める時間にしたい。

#### <補助資料・URL>

『13歳のがん闘病記 瞳スーパーデラックス』（猿渡瞳、日本新聞社）

『ママ、笑っていてねーがんと向き合い、命を見つめた娘の贈り物』（猿渡直美）

アフラック生きる.com <http://www.aflac-ikiru.com/saruwatari/index.html>



#### 4 本時の展開

##### (1) ねらい

生きている幸せを感じて精一杯生きていこうとする心情を育てる。

##### (2) 展開

過程	学習活動と発問	ねらいにせまる手立て	期待される子どもの姿
導入 (2)	1 自分たちの考える「幸せ」を知る。	○事前に「幸せ」についてのアンケートをとり、自分たちの考える幸せについて知ること、後の瞳さんの「幸せ」に目を向かせるようにする。 ○事前に資料「命をみつめて」を読ませておく。	○お金があると幸せだな。 ○自由な時間は幸せだ。 ○好きなことをしている時間が幸せだな。
展開 前段 (5)	2 弁論大会の映像を見る。	○初めに実際の弁論大会の様子を見ることで、瞳さんの様子や、瞳さんが訴えたかったことをより深く感じ、これからの話し合いをより具体的に考えられるようにする。	○かわいそうだな。 ○瞳さんはすごいな。 ○瞳さんは苦しくなかったのかな。
(5)	3 猿渡瞳さんの生き方について考える。 ○お母さんから命が半年と聞かされたとき、瞳さんはどんな気持ちだったのだろう。	○瞳さんが自分たちと同じ12歳であることを再確認して、その状況をより身近に考えられるようにする。 ○がん告知を受けた瞳さんの言葉から、瞳さんの心の強さを感じられるようにするとともに、自分と対比して考えられるようにする。	○半年しか命がないの？ ○こわいよ。誰か助けて。 ○病気なんて嫌だよ。 ○突然のことで頭が真っ白になった。
(5)	○瞳さんが右足の手術を断ったのはどうしてだろう。	○病気になっても夢をあきらめたくないという瞳さんの強い気持ちに気付かせる。	○夢があったから。 ○強い気持ちをもっていた。 ○生きる希望を持ち続けたかったから。
後段 (15)	◎瞳さんが最後まであきらめずに、精一杯生き抜けたのはどうしてだろう。	○短期間に、回復と再発を繰り返した状況を確認して、瞳さんの気持ちを考えられるようにする。 ○「がん」という壮絶な状況を想像することが難しい児童のために、入院中の様子が書かれた資料などを用いて、児童がその状況を想像しやすいようにする。 ○瞳さんががんばれた理由について板	○お母さんを悲しませたくなかった。 ○病院で亡くなった人分まで生きようと思ったから。 ○命の大切さをみんなに伝えたかった。 ○夢があったから。 ○どうしても歌手になり

<p>終末 (10)</p> <p>(3)</p>	<p>4 学習を振り返る。</p> <p>○「本当の幸せとは、『今、生きている』ということなのです。」という言葉はどう思いますか。</p> <p>○「6年4組 生きる」を全員で読む。</p>	<p>書する際には、子どもの意見を整理しながら書くようにし、聴き合い活動の中で気付かなかった深まりの視点を見つげられるようにする。</p> <p>○導入で提示した、自分たちの考える「幸せ」に目を向けさせ、瞳さんの生き方に自分を重ね合わせながら書かせることで、自分の命・生き方について考えられるようにする。</p> <p>○自分たちにとって、「生きる」とはどのようなことなのか、考えながら読むようにさせる。</p>	<p>たかったから。</p> <p>○病気に負けたくなかった。</p> <p>○瞳さんの意志が強かったから。</p> <p>○最後まで「生きたい」と強く思っていたから。</p> <p>○今まで生きていることが幸せだと感じたことはなかった。でも、今日はそれを感じた。</p> <p>○今、この瞬間が大切に、幸せなことだから、毎日を大切にしていきたい。</p> <p>○これからは、くよくよしないでがんばろう。</p> <p>○自分も夢を大切に生きていこう。</p>
-------------------------------	---	--	---

# 道徳ノート

名 前

「命をみつめて」

猿渡 瞳

**A**


**B**
